鈴っ子見守り通信

H26.6.13
第103号

鈴川小学校
父母と教師の会

ＰＴＡスローガン『「みんなで創り、みんなで守り、みんなで育てよう」
～できることを　全ては子どもたちのために～』

「私たちはこの日が来ることを信じて生きてきました」
～吉田有希ちゃんの両親手記から引用～

予定では今号も引き続き「交通安全」について特集するつもりでおりましたが、皆さんもテレビ等でご存じのとおり、８年半前に栃木県内で発生した小学１年女子児童誘拐殺人事件の犯人が逮捕されましたので、順不同になりますが、「不審者対策」について特集していきます。

この事件は、実は編集担当者が「見守り通信」を発行するきっかけとなった事件でした。当時の私は娘が同じ小学１年生で、決して他人事ではないという想いを強くした記憶があります。

今号では、「不審者とは？」、「不審者への対応方法」、「心がけていきたいこと」を特集します。

◆　小学１年女子児童誘拐殺人事件発生後の対応

栃木県日光市立大沢小学校では、誘拐現場となった通学路周辺の林の木を伐採し見通しを良くしたり、緊急時の非常通報ボタン装置が設置されたりしました。その他にも登下校は保護者が同伴することを継続し、毎年、児童らが通学路の危険を確認し地図を作製する行事「安全マップづくり」が行われているそうです。

一人の尊い子どもの命が突然奪われ、犯人が逮捕されるまでの8年半もの長い期間にわたって、周辺の方たちは不安な気持ちのまま生活することを余儀なくされました。

子どもたちを取り巻く環境には、「絶対に安全」ということはありません。この果てしない課題にどう向き合い取り組むか、そして、子ども自身が万が一の時に自分の身を守る行動がとれるよう訓練し、その方法を身につけていく工夫が大切になってきます。

◆　危険に対する経験値を上げる工夫をしよう

昔、通学路の安全対策についてアンケートをとったことがあります。その回答の一部に「子どもが安全対策を学べば良い」という回答がありました。一見するといかにも正しい意見のようですが、私の見解は“大きな勘違いをしていないか“と考えます。

子どもは“正しい”“悪い”、“安全”“危険”などの価値判断を、経験で学ぶことにより形成していきます。大人に比べ経験値が低いため、その判断基準も曖昧になりますし、日常の家庭でのしつけの度合いにより、その能力差は大きくなっていきます。

危ないことをしていても「子どもだから仕方ない」ではなく、危ない理由やどうすればいいのか、タイミング良く叱ることが、危険に対する経験値を上げていく近道になっていきます。

◆　「安全めあて」を決めよう！

子どもが主体的に取り組めるように「安全めあて」を決めて、きちんと実践できたらしっかり誉めてあげましょう。　＜安全めあての一例を挙げてみます＞

◇道路を渡るときは、必ず左右の確認　◇道路では走らない　◇寄り道はしない
◇公園などで暗くなるまで一人で遊ばない　◇知っている人に会ったらあいさつをする

◆　いざという時はどうすればいい？

これまで発行した「見守り通信」にも不審者対策について特集していますので、時間がある方は鈴川小学校のホームページ（第 48,72,89,90,92,93 号ほか）をチェックしてみてください。

ここでは、いざという時の対処方法の一例を挙げますので、ご家庭でも話し合ってみましょう。

➢ 「知らない人」とはどんな人？

「知らない人についていかないなんて、当たり前のことだろう。」と、思っていませんか？

子どもにとって「知らない人」という基準が、大人とは違います。

子どもの場合は、相手からネームプレートを見て「▲▲くん」と名前で呼ばれると、「僕の名前を知っているから、知っている人かな？」と考えます。

「知らない人」と言うのは簡単ですが、子どもにとっては判断が難しいのかもしれません。ある程度の判断基準を日頃から教えてあげる必要があります。例えば、

高 安全性 低

安全度Ⅰ……いつも顔を合わせる近所の大人、黄色い腕章を付けている大人
安全度Ⅱ……通学路沿いに住んでいる大人、同じ地区に住んでいて顔がわかる大人
要警戒……車の窓越しに声をかけてくる大人、顔を見たことがないのに近づいてくる大人、一人でいて子どもの方をずっと見ている大人

- **もし、道を尋ねられた時はどうすればいいの？**

顔を見たことがない大人から、もし道を尋ねられた場合は、**「僕（私）は分からないので、大人の人に聞いて下さい。」です。それでもしつこく尋ねてくるようであれば、不審者と考えてその場からすぐ逃げるように教えましょう。**

本当に困っている人は、子どもに道を尋ねたりしないはずですし、最近ではカーナビのついている車も多くなっているので、子どもに道を聞くこと自体が不自然です。

- **「知らない人」だけど、「困っている人」の場合は？**

「困っている人を見たら、助けて親切にしなさい」と、教えているご家庭もあるかと思います。しかし、顔を見たことがない＝「知らない人」だと、親切をするには勇気が必要となります。

本当に困っているようだけど「知らない人」のときは、まわりに協力してもらえる大人を探すように教えましょう。

- **あなたの子どもさんは、大人に声をかけられると近づいていきませんか？**

警戒心が薄く人懐っこい子どもだと、声をかけられると無意識のうちに近づいていく場合があります。**登下校や公園などで遊んでいるときは、不用意に近づかず、すぐ逃げられる距離を置いて、話すように教えましょう。**

相手が車の場合は、体重の軽い子どもでは、ほんの数秒で車に乗せられてしまいます。

- **知らない人に「お父さんがケガをしたから、病院まで乗せていってあげる」と言われたら？**

突然、そんなことを言われたら、子どもはどうしたらいいか分からなくなるでしょう。

そんな時でも**「家に帰って確認します。」と、車に乗ることを断るよう教えておきましょう。**

「命」を守るために子どもさんと確認しておきましょう!!

《子どもに教えておきたいこと》

不審者への対応など

◆ 防犯ブザーが使えるよう日頃から点検し、いざというときにすぐ鳴らせる位置に取り付ける。
◆ 見知らぬ人に声をかけられたら距離を置いて近づかずに話し、急に近づいてきたり変な行動をしたら大声を出したり、防犯ブザーを鳴らすよう教えておく。
◆ 不審者に遭ってしまったら、近くの「子ども１１０番連絡所」やコンビニ、お店、会社など大人のいる建物に逃げるよう教えておく。
◆ 暗くなるまで公園等で一人で遊んでいることがないよう教えておく。

《大人ができること》

下校時間帯、帰宅後

◆ 子どもを迎えに行く時など外出時は、不審者が近づきにくくするため見守り隊腕章を着ける。
◆ 公園や物陰などに用もなく長時間いる人がいたら、一声かけたりするなど警戒している姿勢を表し、相手に注意を促す。
◆ 遊び等で子どもだけで出かけるときは、「どこに誰と」「何をするため」「帰る時間」を確認して、暗くなる前に帰宅するよう一声かけて送り出す。
◆ 暗くなっても子どもだけで遊んでいるのを見かけたときは、早く帰宅するよう子どもに注意する。